

迅速な治療で救命率の向上へ

～ドクターヘリシミュレーション訓練～

10月26日(金)、北海道曹達株式会社のグラウンドで『ドクターヘリシミュレーション訓練』（市主催）が行われました。

ドクターヘリは、厚生労働省救急医療対策事業の『ドクターヘリ導入促進事業』を活用し整備され、機内には医療機器を備え、医師と看護師を乗せて出動。重傷病者に迅速な治療を行うことで、高い救命効果が期待されています。

道内では平成17年4月に医療法人^{いひなかい}深仁会手稲溪仁会病院（札幌市手稲区）だけが導入し運用しています。平成18年度は496件の要請がありました。

この日行った訓練は、市内の病院から手稲溪仁会病院への搬送を想定したもので、10時にドクターヘリの出動を要請し、約30分後に訓練会場に到着して、患者を救急車からドクターヘリに収容するまでの流れを確認しました。ドクターヘリの活用で、すでに活躍している北海道防災航空隊ヘリとともに災害時や傷病者の状況を踏まえた搬送が可能になります。



▲ドクターヘリの機内

潮風を浴びながら海洋浴



～鷺別海岸海洋浴ウォーキング祭り～

10月21日(日)、『鷺別海岸海洋浴ウォーキング祭り』（鷺別海岸イベント実行委員会主催）が行われました。この催しは、ミネラルを含んだ潮風を浴びながら歩くことで、生活習慣病の予防やストレスを解消し、健康増進を図ろうと、今年初めて開催されました。

この日は時折小雨が降る中、参加者は鷺別漁港を起点に用意された2.5キロと5キロの各コースを、中継地点に設けられた『健康に関するクイズ』に挑戦しながら、元気にウォーキングしていました。参加者はウォーキング終了後、いぶり中央漁業協同組合協力の石狩鍋を食べて冷えた体を温めながら、鷺別中学校のギターマンドリン演奏などを楽しんでいました。

恐竜の絶滅から学ぶもの

～環境講演会～

11月8日(木)、市民会館で『環境講演会』（市・市環境保全市民会議主催）が開かれ、小・中学生を含む約120人が環境問題について考えました。

この講演会は、多くの方に環境問題について関心を持ってもらうために毎年実施しているもので、今年も、小林快次さん（北海道大学総合博物館助教）が恐竜を題材に、環境問題について講演。小林さんは恐竜の進化から絶滅に至るまでの恐竜研究を紹介し、「地球では過去に5回の種の大絶滅期があったが、それらの大絶滅期よりも、現在の人間によって引き起こされている種の絶滅速度は比較にならないほど速い」と現在の環境問題へ警告し、最後には「われわれ人間には考える力がある。一人一人が環境保全に努めましょう」と呼び掛けていました。

